

《2007年度 サロン 2002 総会議事録》

【日 時】2007年5月20日(日) 16:00~18:00

【会 場】(財)東京都サッカー協会(TFA)内ミーティングスペース

【議決成立要件】2007年度会員数(総会時) 127名(ただし2007年度会費未納者も含む)。

出席者数 13名、欠席連絡者のうち委任状提出者数 66名、合計 79名で、定足数に達した。

【議 長】中塚義実(理事長)

【出席者】13名

麻生征宏 阿部博一 伊藤慧 牛木素吉郎 川井寿裕 岸卓巨 杉沢幹生 田中俊也 徳田仁
中塚義実 藤田直樹 宮崎雄司 室田真人

【総会欠席連絡者】 73名(うち委任状提出は 66名)

浅野智嗣 安藤裕一 伊藤禎治 井上俊彦 井上俊也 宇都宮徹壱 宇都宮みちこ 梅澤佳子
梅本嗣 大橋二郎 賀川浩 笠野英弘 加納樹里 木口理恵 北原由 熊谷建志 五香純典 古
藤田信博 木幡日出男 斎藤健司 三枝敏洋 榊原孝彦 笹原勉 塩沢拓也 嶋崎雅規 島原裕
司 清水諭 高木亮 高崎康嗣 高田敏志 高橋義雄 高原涉 竹中茂雄 田中理恵 茅野英一
土谷享 長岡茂 仲澤眞 中曾千鶴子 名方幸彦 中塚頼彦 中村敬 中村浩彦 西村祥央 野
口良治 野崎浩之 野田直広 葉梨忠男 早川武彦 半澤隆憲 福西達男 麓信義 堀美和子
本多克己 前田博子 松下潤 松下徹 松田保 松本秀一 松本行弘 水上博司 宮川淑人 武
藤文雄 村木初年 本杉亀一 両角晶仁 山内一郎 山中麻耶 山田告人 由利英明 吉村修
依藤正次 涌田龍治

委任先66名内訳: 中塚義実(含中塚理事長)...15名、中塚先生(含中塚さん、中塚様、中塚氏)...9
名、理事長...9名、議長...17名、徳田仁さん...1名、田中俊也さん...1名、役員の皆様...1名、出
席者...8名、総会...2名、事務局...1名

【議事録作成】室田真人

参考) 2004年度は116名中、出席19名、欠席連絡かつ委任状提出67名、計86名

2005年度は117名中、出席18名、欠席連絡かつ委任状提出56名、計74名

2006年度は109名中、出席16名、欠席連絡かつ委任状提出49名、計65名

はじめに

(中塚)「2007年度サロン 2002 総会議事進行表」をご覧ください。【議決成立要件】によると、2007年度の会員申込者が、5月20日現在で127名います。ただし、会費未納者、つまり正式な手続きを終えていない方も含んでいます。

本日の出席者13名と委任状提出者66名、合計79名が「出席」扱いになり、過半数を越え、定足数に達しました。過去3年間の提出状況も参考までに載せておきます。

委任状の内訳ですが、「中塚理事長」を含む「中塚義実」は15名。会員の中にもう1名「中塚さん」がいるので紛らわしいのですが、「中塚先生」が9名、「理事長」も9名で「議長」が17名。ここまでがおそらく私、中塚義実に対する委任です。他は、徳田仁さん1名、田中俊也さん1名、役員の皆様1名、出席者8名、総会2名、事務局1名となっています。

【議 題】

報告事項

- ・ 2006年度事業報告及び決算
- ・ 2007年度会員募集について
- ・ 理事会（2007.4.30）報告
- 1．2007年度の組織と人事
- 2．総会での審議事項の確認

審議事項

- ・ 2007年度事業計画及び予算
- 1．事業計画：本年度の「テーマ」をどこに置くか（または置かないか）
- 2．予算
- ・ サロン 2002 規約の改廃
- 1．役員の任期について
- 2．その他
- ・ その他サロンに関する重要事項
- 1．サロンの入退会をめぐって
- 2．サロン名簿の扱いについて
- 3．その他

報告事項

・ 2006 年度事業報告及び決算

（中塚）2006 年度末総会（メールの回覧で開催）で事業報告と、決算の大枠については承認されていますが、積み残しの部分もあったので、会計報告を確認していきたいと思います。

会計報告

（川井）「平成 18 年度 サロン 2002 収支決算書（案）」をご覧ください。

収入の部

- 1．会計受入 2006 年度は最終的に 122 名の方から会費受け入れがあり、これを会員数とします。4 月 30 日の理事会時点で 115 名の納入が確認されていましたが、未納の方が 14 名いました。最終的な督促をしたところ、その後、7 名から入金があり、残りの 7 名は未納のままです。会費納入額は合計で 407,000 円です。会費未納者は、決算書に書いている方々です。理事長及び会計担当からは 3 回メールにて督促を行いましたが、結局、会費を納入していただけませんでした。
- 2．雑収入 預金利息で、8 月と 2 月に若干受け入れております。
- 3．前年度繰越金 前年度繰越金は、284,764 円となっております。
- 4．補足 監事の高橋先生に監査していただいたところ、17 年度の未納者からの会費の

扱いに関しては、会費受入として計上するのではなく、当該年度の会費とより明確に区分するため、前年度繰越金として計上し、備考で内訳を示したほうがよいのではないかと指摘を受け、このように整理させていただきました。

支出の部

1. 月例会補助 月例会で、未会員の初回参加者は参加費を取らないというようにしたこと
もあって、補助額が若干増えています。
2. プロジェクト補助 シンポジウムに要する経費とプロジェクトに要する経費に分けて整理
しています。シンポジウムについては開催したものの、最終的な報告書作成作業が遅れ、18
年度中に完成出来ませんでした。したがって、18年度決算においては、シンポジウムの経費のみ
を決算しています。プロジェクトについては、昨年度はロゴを作成したり、サロン以外の事業に
協賛したりしたのですが、今年度は「東京都におけるユースフットサル大会」報告書への広告
掲載料のみとなっています。
3. 印刷製本費 みなさんにお配りしている名簿の印刷製本費です。
4. 通信運搬費 会員名簿の送付が主になっています。ここがかなり減額になっているのは、
月例会の案内と月例会の報告が、月に1、2回理事長から送られていると思いますが、実費が
発生していなかったため、役務の提供として雑役務費で整理したため、減額となっています。
5. 借損料 特段ありませんでした。
6. 雑役務費 先ほど述べたとおり、通信運搬費で計上していたものを役務の提供と見なして、
こちらに計上しました。それにメーリングリストの契約料、振込手数料となっています。
7. 事務費 名簿を送る際の封筒など、事務用品費を計上しています。
8. 予備費 サロン2002の旅費規程は整備されていませんが、4月末に行った理事会のときに
遠くから参加していただいた理事等3名に旅費を支出しました。当初予算では「旅費」という
支出科目を設定していなかったため、予備費で整理し支出しました。

その他

(川井) その他、月例会の決算(案)、シンポジウムの収支決算(案)、会員数の推移の資料を配付
しています。会員数の推移については、会費を納入した会員数で集計しています。女性に
ついては、名前で判断すると12名です。

最後に、監事の高橋義雄さんから監査了承の旨のメールをいただいております。決算の方
は以上ですが、何かございますか。

(中塚) 「月例会決算(2006年度)」で、公開シンポジウムのところの「テーマ」が間違っています。
「ラヂオで伝えるフットボール」はその前年のテーマですので消しておいてください。
それでは、18年度決算はよろしいでしょうか。

承認

．2007年度会員募集について

(中塚)現時点で、入会の意思表示をされた方は127名。2006年度会員で退会の意思表示をされた方は2名(宮城修、松木淳)いますが、松木淳さんは2006年度会費が未納でした。

2007年4月30日に開かれた理事会の時点で、会費未納者は14名いました。これらの方に連絡したところ、7名の方から振り込みがありました。振り込んでいただけなかった方が7名います。これらの方の扱いに関しては、後ほど審議になります。

．理事会(2007.4.30.)報告

1．2007年度の組織と人事

(中塚)すでにメールで送っているものですが、「2007年度第1回 サロン2002 理事会報告」をご覧ください。1～3ページが理事会報告です。4ページ以降は理事会とは関係ありません。理事会以降のメールでの意見を載せたものです。

役員一覧の表をご覧ください。役員候補者選考委員会で理事、監事が推薦され、理事会での選定を経て総会で承認されました。そこからは互選で理事長、副理事長を選ぶことになったのですが、4月30日の理事会で、理事長が中塚、副理事長が徳田さんとなりました。

(出席者)拍手

(中塚)運営委員は、規約第9条「運営委員は、理事会の議を経て、理事長が委嘱する」ということですので、ここでは名前を読み上げ、報告します。

川井さん、岸さんが会計・名簿担当。涌田さんが引き続きメーリングリスト担当。理事でもありますが、本多さんにはHPの更新をFC JAPANとしてやってもらっています。経費は発生していません。「powered by FC JAPAN」をサロンのHPに入れることで対価としています。事業担当者は数名入れかわりました。2006年度シンポジウムの事務局をされた高田さん。今日の議事録作成者でもある室田さん。そして宮川さん。大阪の枚方FC代表で、関西クラブユースサッカー連盟の理事長をされています。関西サロンの活性化ということを含め依頼したところ、快諾していただきました。日本フットボール学会理事でもある安松さんは、JISSや日本サッカー協会とのパイプ役ということで依頼しています。

以上が、2007年度の組織と人事です。

2．総会での審議事項の確認(規約に沿って)

(中塚)総会でこんなことを議論しなければならない、ということ、規約に沿ってピックアップしました。規約では、総会で審議する事柄について、

- 一 事業計画及び予算に関する事項
- 二 事業報告及び決算に関する事項
- 三 本規約の改廃
- 四 その他サロンに関する重要事項

これが、総会で議決することです。この中身に沿って、理事会で出たことを整理すると、

- 1) サロンの入退会をめぐって・サロンの名簿の扱い
- 2) 役員の任期について

3) 事務局経費・または謝金をどう算出するか

これはサロンの組織内のことです。

4) 公開シンポジウム、出張サロン、月例会等の事業について

5) 公開シンポジウム報告書の送付先と送付方法について

これは外向けのアクションのところ、話し合いを進めていきたいと思います。

審議事項 (の順番で進む)

・その他サロンに関する重要事項

1. サロンの入退会をめぐって (議題表は3ページ)

1) 2006 年度会費未納者の扱いについて

(中塚) 前述の、2006 年度会費未納者の扱いについてですが、自動的に退会として扱わざるを得ないと考えます。昨年度もこういうことがあり、同様に対処しました。仕方がないと思いますが、いかがでしょうか。

承認

2) 入会手続きについて

(中塚) 「資料：理事会報告」7 ページの冒頭に、宮川さんからのメールを載せてあります。前滝川第二高校監督で、現ヴィッセル神戸の黒田和生さんも申し込みをしたがっているけど、手続きに戸惑っている、という趣旨の内容です。入りたくても億劫になっている人が結構いるということで、もう少し入会手続きを簡素化できないものかとの、宮川さんからの問いかけです。これについてご意見があれば。

(牛木) どういう点が複雑なのですか。

(中塚) わかりません。書くのがたぶん億劫なんだろうと思います。

(田中) これまで、HP から入った人もいますか。HP を見て、月例会は 1 回も来たことはないけども会員になったという人は。

(伊藤) 僕がそうです。先輩の松下さんからうかがっていたので、もともと知っていたのですが、私自身は HP から手続きをして入会しました。

(田中) インターネットから入ってくる希有な人もいますが、月例会に何回か参加して、翌年から会員になるという感じでしょう。黒田先生の場合は、関西で在住で、東京にそれほど来ることもないのでなかなか入りづらいというのは理解できますけど。

(徳田) 毎年僕らも書きますけど、改めて書くのが億劫なんじゃないですか。前年度と同じだったら、同じって送っていいんですよね。

(中塚) ただ、僕自身はこのハードルを下げたくないんです。Give & Take の一番最初の Give として、「私はこのような者です」というのをメンバーに知ってもらうのがまず大事ではないかと考えます。

(牛木) 僕は東京に住んでいるから、入会手続きに問題はなかったんですけど、HP の画面上を見ますと二つ問題があります。まずは、前置きが長すぎて、肝心なものがなかなか出てこない。もう一つは、いっぺん入会したら、次の年からは会費だけを払えばいいんじゃないかなと、

僕は思うんだけど。翌年から同じものは出さなくてもいいっていうふうにしなけければならないんじゃないか。前年度と同じっていうのを送るのも、それも必要ないんじゃないかって思うんですよ。継続の意志を、会費納入によって示せばいいんじゃないかって思うんだけど。

(中塚) 会費納入という形で「私は元気ですよ」ということを示してもらってもいいのですが、それよりも、年に1回ぐらいは近況を報告してほしいということです。

(田中) 所属が違ってることがあるんですよ。

(牛木) もちろん住所が変更になったり、所属が変更になったらお届けくださいということにした方がいいんじゃないかと思うんですよ。率直に言って、先生が、教育的色彩が強いついのが、民間人としては、抵抗感はあると思うんですよ。面倒だとは思わないけどね。

(田中) みんながみんなアピールしたいわけではないと思うんですけど。

(牛木) アピールするかしないかっていうのはそれぞれの人の問題で、アピールする欄があるのはいい。いいんだけど、アピールせよ、ってなると面倒くさいなってなることもあると思うんだけどね。

(宮崎) 先生としては、名簿にプロフィールを書くというのを Give & Take の目安として利用できると考えているのですか。

(中塚) ほんのちょっとでかまわないから、変えてほしいんです。最近こんなことがありましたっていうのでいいから。

2 - 1 . サロン名簿の扱いについて、その1

(中塚) 関係するので名簿の扱いについてもあわせて議論します。理事会のときにも出てきましたが、2000年度からサロンという組織になって、その年から今の形で名簿をつくっています。サロン名簿のヒントは、日本ポピュラー音楽学会の名簿です。この学会には様々な分野の人が入っていて、自己PRも含めた名簿をつくっています。人物像がよくわかる名簿なので、例えば共同研究したいなと思ったときに、すぐに連絡できるようにしているんだろうなと思いました。みすず書房の島原さんもポピュラー音楽学会員で、サロン名簿を作る際にアドバイスをいただきました。こうした経緯で、サロン名簿には自分のプロフィールや自己PRをいっぱい書けるようなつくりにして今日まで至っています。

それが個人情報保護法以降、このようなものの管理がいろいろなところでうるさくなってきています。こうした流れの中で、億劫になっている人もいるのかなと思います。今のままでかまわないのですが、この機会にあり方を検討することも必要ではないかと思います。理事会で出ていたのは、少なくとも「名簿の管理はしっかりしてくれ」と、改めて会員に通知しようということなのですが、この件でいかがでしょうか。

(田中) 学生の部活の自己紹介のようで、ほのぼのとしていていいんじゃないかと思います。うちに来る名簿は、医者関係のものが多いのですが、素っ気ない。勤務先と、下手したら科も書いていないのもあるんです。逆に、うちの大学の柔道部の名簿も来るのですが、これは個人情報が丸わかりです。どこの高校で何をやったかっていうのが書いてあるし、身長、体重も書いてあったりするんです。こうなってくると、会ったことがない人でも、メール

等で容易にコミュニケーションを取れるというメリットはあるんです。その中間的なサロンの名簿は、私は非常に好ましいです。

(牛木) 法律上とか外部から、批判、非難されないというのが重要です。総会に参加しているくらいの人数ですといいのですが、100人以上の単位でいるとなると、名簿の管理を徹底させるのは難しいだろう。例えば僕は、読売文化センターでサッカー講座をやっていると、今は受講者の名前の一覧と、センターがその人に勝手に付けている番号しかくれません。自己紹介してもらって、その後で自己紹介を書いてもらう紙を回すんですけど、そこに書きたくなければ書かなくていいと、口でも言うし紙にも書いておきます。ただ、連絡をしなければならぬから、一つだけ連絡のつく方法を、メールアドレスとか電話番号を書いてくださいと言います。そして、みんなに配る名簿には、たいていはメールアドレスなのですが、配っていいですよという連絡先を書いて渡します。管理者はやってくれないですね。つまり、管理者の方は責任を逃れているんですよ。

形式的には、書かなくていいとしたほうがいいのではないかと思います。仕方がないと思います。それは中塚先生の趣旨とは全然違うと思いますが、個人情報公開するかしないかの権利は本人に属しているので、先生が生徒に強制することはできず、ましてサロンは大人の集まりですから。実際、住所を書いてくれないって言う人はいないと思いますが、ゼロではないです。メールアドレスを書いていない人も、僕のところにもいます。

(阿部) 電子媒体でなくて、手書きで送る人はいませんか。

(中塚) 今は手書きの人はいません。

(阿部) お金はいっぱいかかるのですが、サイトを会員の方しか開けないようにするのはどうでしょうか。

(阿部) 機能追加に費用はかかるかも知れませんが、サイトの一部を会員専用のものにしてみるというのはいかがでしょうか。

(徳田) 僕も考えていたんですけど、HPの運用は、今、本多さんにタダでやってもらっているんですけど、そこにある程度お金を掛けて運用方法を変えた方がいいと思います。例えば月例会で何をやったかっていうテーマは会員以外の人でも見られるようにしてもいいけど、その内容に関しては会員限定でログインして得る。そうすればメールでやりとりする必要はありませんし、何をしたのかっていうのが見られるし、会員のメリットがはっきりした形で出るのではないのでしょうか。このように、根本的にやり直しをする時期に来たのかなって思いますけど。

(中塚) 時間差はありますが、HP上で月例会報告は誰でも見られます。だから極論すると、会員のメリットは、名簿が郵送され、月例会案内が届くだけと言えるかもしれません。

(徳田) 例えば早川さん(早川直樹氏)がしゃべったことがそのままいいのか。コピーしてそのままどこかに貼り付けられたら著作権の問題も出てきますよね。会員でお金を払って住所とかが明らかになっている人だったら問い詰められるけど、全く知らない人だとそういうことを意識せずにやってしまうことだってあるでしょう。演者の方のプライバシーとか権利を侵害する恐れもありますね。やっぱり見られるのが会員の特権だと思うんですけど。3000円という値段をもう少し上げてもいいのかもしれない、管理費にお金が掛かるって

ことを理解してもらった上で。

(田中) ID とパスワードで管理する HP にした方が安全でいいかもしれないですね。やっていますっていうのは誰でも見られるようにしても、これだけ情報があると、「2ちゃんねる」などで出されたら迷惑がかかりそう、というようなケースもあり得るような気がしますよね。

(中塚) ただ、早川さんに限らず、月例会の報告は、「HP に公開します」ということを前提にみなさんにチェックしてもらっているから、内容的には大丈夫だと思うんですけど。

(牛木) よくチェックしてくださいとメールが来ますけど、それは公開されていないんですよね。

(中塚) もちろんです。

(牛木) だから、チェックして返したやつは、HP に載せても問題ないように削っているわけですよね。

(中塚) 早川さんの回は、内容的には半分くらい削っています。最初のはすごかったんですけど。

(徳田) そうすると、本当は行きたかったけど行けなかった会員は、端折った部分しか見られないわけですね。

(田中) その削った部分を聞きたかったと思うんですよね。

(牛木) でも、それは仕方ないんじゃないか。

(徳田) 公開していいバージョンと、メールアドレスとパスワードでログインして、それで見られるとかね。

(牛木) パスワードを入れて会員が見るにしても、やっぱり印刷物と一緒にですよ、HP に載せるのは。だから都合の悪いことは載せられない。僕は、会員名簿と会員としての特権というのは分けて考えた方がよくて、会員名簿はみんな了解して会員になっているわけだから、すべての人に流通させていいと思うけど。でも、それが個人情報保護法に抵触したり、訴えられたりっていうことは非常に具合が悪いから、それを逃れるようなことは書いておいた方がいいと思う。

(中塚) 今も、書かなくていい項目はあるんです。「HP に公開する属性」や「現在の職業」などは書かなくていい。

3 . その他 : メーリングリストについて

(藤田) メーリングリストについてお聞きしたいんですけど、誰でも全員に流していいってことになっているんですか。

(中塚) そうです。どういう意味ですか。

(藤田) 例えば、自分のイベントの告知がMLで流れてくることがあるけれど、みんなの合意の元でやっているのかなと思ひまして。自分の仕事のことを告知するのは、同業者の方がいたときに不愉快になることもあるのではないのでしょうか。同日に自分も同じ仕事をやっているのに、片方がメーリングリストで流して、自分は控えているのに、っていうこともあるかもしれません。自分の仕事の宣伝を、何でメーリングリストを使うんだ、って思う方もいるんじゃないかなと思ったんですよ。連絡事項だったらいいんですけどね。

(牛木) これは第 3 の問題ですよ。中塚さんの方から、みんなに知らせるためにグループメールを使っていると。そのまま返信して、中塚さんだけに返信しようと思っても、みんなに流

れちゃっているってことがありますよね。そういうふうに情報が流通しちゃっている。僕のビバの場合は、グループメーリングリストは、それを通じて他の人は流せません。つまり、幹事が知らせるときには使うけど、一般の会員が掲示板代わりに使えない。この前日本サッカー史の話が出ていたから書いたけど、内心よくないかなと思っていました。

(中塚) 経緯を確認すると、最初はメーリングリストはなかったんです。私の方からみなさんへ一方的に送信するだけでした。しかしそれだと、個々の会員は受け手でしかなくなってしまいます。会員はそれぞれの地域、分野でいろいろと活躍されているわけだから、それぞれが情報発信者になって、メンバー間で共有できるようになればいいのではないかということでメーリングリストができました。メーリングリストにどのようなものを書いていいのか、掲示板があった方がいいのでは、という議論は以前もありました。メーリングリストへの書き込みのルール化が必要ということでしょうか。その必要はないと思うんだけど。

(麻生) 難しいところですよ。会員の方に興味を持ってもらいたいと思って送ったとしても、人によって宣伝だと思ってしまいかもしれないし、受け取り方が違ってしまいます。どこまで制限を加えるかというのを、文章にしてルール化するのは厳しいかなと思います。でも、みなさん上手に使っているかなという気がしています。こういうのはだめっていうのをつくってしまうと、メールを書くのを避けてしまうのも問題かなとも思います。

(藤田) 掲示板だったらいいと思います。でも、メールアドレスを頂いて、そこに送りつけちゃうっていうのが問題かなって思います。

(牛木) ダイレクトメールを直接送りつけるのと一緒になるわけです。理事長が何かを知らせたい、そのためのグループメールはそれでいいと思うんだけど、会員の人が意見を述べる場合は、掲示板でいいんじゃないかなと。あるいは HP の中にそういうのがあれば、アクセスすれば見られるということができるので、ほしくもないメールが来るってことはない。少人数の会であれば問題ないけど、100 人以上になってきたからそういう問題が出るんじゃないかなと。

(徳田) 自分とは関係ないけど、サロンメールが飛び交っていて、それがおもしろいときもあります。それが邪魔ではないですよ。嫌なメールが来たら削除しちゃえばいいわけですからね。今の段階でこれがやだっていうメールは来ていないかもしれないですね。

(宮崎) 人によって受け取り方が違うからおもしろいですね。

(徳田) これに返信すると全員に回ってというのは、何とかしたいですよ。

(中塚) それはうっかりミス以外の何ものでもないですね。

(徳田) だから、2 行くらいで、このメールに返信をしたら、全員に流れますよっていう注意は入りたいですね。常に出るようにできると思うんですよ。

(中塚) それはやってもらいましょう。これは管理人の涌田さんに連絡しておきます。

涌田氏がサーバーに問い合わせたところ、「できない」ことが判明。個別に対応(注意を促したい場合は投稿者自身がその旨記載する)するしかないとのこと(2007.5.30.)

(麻生) 不快なメールがたくさん来るようになった場合は、例えばメーリングリストの管理人や理事長宛てに、不快なメールですと連絡して、その人が何回か重なるような場合は、注意してもらってというルールでいいのかなって思いますね。

(中塚) 現状そんなに大きな問題はないですよ。

(宮崎) メーリングリストで流れたイベントの日程とか、催しがバッティングしちゃったらどうするのかなと思います。

(田中) 選ぶのはサロンのメンバーだから、選べるっていうのはありがたいですよ。

(徳田) Give & Take の問題で、その人に見てみたら Take がほしいからやっているっていうのもあるじゃないですか。今のところジャンクメールが来ているわけではないから。会員にどういう人がいて、そしてもしかしたら自分の仕事に協力してくれそうなんじゃないかなとか、情報があって、この人にこういう話を持っていったりすると仕事になるんじゃないかな、っていうのがあることを前提にしているわけじゃないですか、Give & Take って。だから今のところいいと思うんですけど。

(中塚) 露骨に自分の仕事に直結させるのはよくないけど、会員に対する Give という意味での情報提供は良いのではないのでしょうか。ただ、藤田さんが言われたような捉えられ方をする人がいるということも併せて議事録に載せておいて、「良識でやっていきましょう」ということを伝えます。それに、麻生さんが言われたように、もし問題があるようなメールが来た場合は、私、もしくはメーリングリスト担当の涌田に投げかけてもらえれば対処するようにします。

掲示板という話が出ましたが、これはまだ検討させてください。本多さんとも詰めていきたいと思います。

2 - 2 . サロン名簿の扱いについて、その2

(中塚) では、名簿の話に戻ります。名簿の方も管理をしっかりすること。それに、書き方に関しては、次年度になりますけど、ここは書かなくていいよというところをはっきりさせていきたいと思います。入会の際の必須要件と、そうじゃないものを整理して流すということでもいいでしょうか。

(牛木) 自己紹介のところを、必須要件にしない方がいいんじゃないかなと僕は思います。名簿は会員だけに印刷物にして渡るんですよ。公開されたくないものは、印刷物にはしないんですよ。

(中塚) 例えば HP に掲載する属性を書きたくない人は、もちろんそこには書いていません。

(牛木) 住所を書くけど、公開してほしくないっていう事例はありましたか。

(中塚) なかったし、そんなことをしたら困ると思います。サロンのいろいろなものを届かないですから。

(牛木) 名簿などはいらないってことです。連絡はメールで、手紙はくれるなというのがないわけではない。そういうことはなかったんですよ。

(中塚) 繰り返しになりますが、そういうことはなかったし、困ると思います。例えばサロンの報告書とか、そういうものを郵送でしか届けられないので、手渡しでは渡せないんですよ。

(牛木) だからそういうのは権利放棄ってことで。ただ、ちょっと性質の違う話で、公開している名簿に住所を書かないけど、本部だけ住所を管理するという例もたくさんあります。

(中塚) なるほど。参考にさせていただきます。

では、メーリングリストまでいきましたが、名簿をめぐって話をしました、この話はこちらで終了にしたいと思います。

・サロン 2002 規約の改廃

1．役員任期について

(中塚) サロン規約についてのところにいききたいと思います。役員任期は、これまで1年としていました。しかしそれだと継続性の面で問題があるし、ちょっと慌ただしい。そこで役員任期を2年にできないかということが理事会で提起されました。この件についてはよろしいでしょうか。

承認

では、規約改正案の第8条をご覧ください。改正案は、サロン規約の起草に関わった両角さんが原案をつくってくれました。「役員任期は」というところで、以前は「毎年4月1日から翌年の3月31日まで」だったのですが、それを「選任された年の4月1日から2年間」に変更したということです。

第9条「運営委員」の改正は、理事会で出たことですが、会計と名簿の仕事がすごくリンクしていたので「会計、名簿担当」にしていたところを、業務が膨大なものになっているので分けた方がいいんじゃないかということです。

第13条は「この規約に定めるもののほか」の部分で、「の」が抜けていたので、これを入れておきます。

最後に附則です。「理事会報告」の6ページに両角さんからのコメントが載せられています。これを参考に、附則(2006.5.20)は削除してもいいだろうと考えます。さらに、附則「改正後の規定は、2007年度から適応する」を定めた理由は、両角さんのコメントの通りです。これもよろしいでしょうか。

承認

(岸) 会計と名簿を分けるというところで、業務内容は会計と名簿で相談すればよいということですか。

(中塚) そうですね。それに、おそらくもう少しスタッフがいたほうがいいと思います。運営委員は理事会で適宜依頼できるので、動きながら考えていきましょう。

・2007年度事業計画及び予算

1．事業計画：本年度の「テーマ」をどこに置くか(または置かないか)

1) 公開シンポジウム：フットサル 観戦文化を中心に

(中塚) 今年度どのように進めていくかという話です。参考資料としては、「理事会報告」の7ページから9ページにかけてで、これは事前にいただいたメールです。2006年度は、ワールドカップイヤーとサロン10周年ということで、前半をワールドカップに関する、後半をサロンの10周年に関するを主に月例会で取り上げていこうということでスタート

しました。合間にシンガポールやバヌアツなど、トピック的な月例会も挟んでいますが、大きな柱としてこの二つがありました。そして3月の公開シンポジウムで、「2006 ドイツで感じたこと」を開催しました。

今年度はこういった柱を立ててやっていくか、もしくは特に設けなくて単発でやっていくというのもありだと思います。でも、折角Fリーグも始まるので、「フットサル」を一つの柱として、もう一つの柱として「日本サッカー史を探る」というのはどうだろうかという理事会で考えました。メーリングリストで投げかけ、幾つかの回答を頂いております。

もう少し具体的に言いますと、フットサルに関しては、公開シンポジウムで取り上げたいということです。9月23日、24日がFリーグの開幕。その一ヶ月前の8月23日、24日にプレマッチが有明であります。これら2つのタイミングを見計らって、その前か後かはわからないですけど、フットサルをメインとしたシンポジウムができればと考えています。牛木さんからいただいたメールで、一般への普及に絞るのか、Fリーグに絞るのか、はっきりした方がいい、という話はすでにあります。この辺りから話を進めていきましょう。

(牛木) フットサルはタイミングとしてもいいし、内容としてもおもしろいと思います。ただ、一つの問題は、日にちの問題で、一般的な興味を持って集まってくるような公開シンポジウムにならないと思うので無理。そうするとフットサルの関係者を集められるような日にしなければなりません。内容に関しては、Fリーグ、つまりトップレベルについて取り上げるか、東京で流行っている、遊びでのフットサルがいいのかテーマを絞りたいですね。スピーカーもそれに適した方に絞った方がいいと思いますね。Fリーグについて言えば、そこに関わっている人たちは非常に不満があるそうです。お金の問題もあるし、府中のチームは、非常に強いんだけど、形式上の条件に合わない。本人たちは、協会が嫌っているのではと思っている。これは、Fリーグの記者会見の時に質問も出ました。そういった問題が、一つのテーマとなります。Fリーグは将来成り立つのかとか、フットサルの性質から見てそれはいいのかという問題もあります。こうしたトップレベルの問題が一つ取り上げることが出来ます。

小さな子どもたちや女の人のフットサルは、東京では普及している。東京ではミズノフットサルプラザのようなものが出来ているが、関西の方ではコートができないという問題もあります。

そしてもう一つ、フットサルの歴史も取り上げることは可能でしょう。札幌大学に柴田先生という方がいらっしゃって、当時はサロンフットボールとして彼が名前を付けてやってきました。セルジオ越後やマリーニョらの普及活動をテーマとしておもしろいと思われま

す。フットサルだけでも、いろいろとテーマが広がりそうですので、しっかりと焦点を合わせていかなければならないでしょう。

(徳田) フットサルの選手的环境に関して興味を持っている人も多いと思うので、そうしたら人を呼べるかもしれないですね。

(中塚) そうした場合、演者は誰がいいですか。サロン関係者だと、普及に関わっている人が多いですね。

- (牛木) 演者は会員の中から選ぶんですか。
- (中塚) 基本的にはそうですが、そうでなくても構わないです。
- (牛木) 僕の知り合いにいるのですが、フットサルの雑誌の編集者の人は、裏事情に詳しいです。
- (藤田) 時期は8月って決まっているんですか。
- (中塚) それもこれからです。でも、3月にはやりたくないですね。
- (藤田) Fリーグが9月に開幕です。それで、8月にシンポジウムをやると、ありきたりな宣伝文句を聞かされて終わるような気もするんです。悪いことは言わないだろうし、蓋を開けてみないと分からないということが多いでしょうからね。3ヶ月経ってからのの方がおもしろいだろうと思います。
- (中塚) 会場とか、そういったことで決まってしまうんですね。これまでは、東京体育館、味の素スタジアム、大学、横浜市スポーツ医科学センターなどを使いました。
- (藤田) 有料シンポジウムですか。
- (中塚) 有料シンポジウムで、学生は無料でやっています。
- (藤田) 何人くらい参加ですか。
- (中塚) だいたい60名くらいですね。
- (徳田) 大きな柱として、フットサルと日本サッカー史が出ていますが、他に出してもよろしいでしょうか。私は、「ACL からクラブワールドカップ」というテーマもおもしろいと思っています。シンポジウムのテーマとして。月例会でやってもいいんですけど、大テーマの中に入れていただきたいと思っています。
- (中塚) 取り上げるとしたらどんなことですか。
- (徳田) 歴史的に、クラブ選手権から始まり、03年から挑戦して、やっと二つ抜けるだろうというところまでできました。クラブの国際大会で試合を見に行く人が増えたというのは、これまでありませんでした。これはクラブの国際大会を認識している人の数が増えているということでしょう。浦和や川崎ということもありますけど、日本で行われるクラブワールドカップは3回目で、日本のサッカー関係者や日本のファンが、クラブワールドカップを意識し始めたのかなと感じます。ファンにとってはワールドカップみたいなものになってきたような気がします。
- (宮崎) 最近そういう傾向が出てきていますよね。代表の応援は行かないけどクラブだと行くというコアなサポーターが増えてきています。それがあある意味で、地域ナショナリズム的なものが出てきたような感じです。
- (徳田) みなさんの中で「ヌルサポ」というのを知っていますか。コアなサポーターっていうのは100名くらいしかいなくて、コアなサポーターとヌルサポの意識差って興味深いです。
- (牛木) サポーターの生態学というか社会学というのはおもしろいですね。それだと、ACLの応援の中から見えてくるというのはおもしろいけど、でもそれはACLというテーマではないですよ。
- (田中) サポーター意識とか、サポーターの生態ですね。
- (中塚) 逆にそのサポーター文化というのをメインにシンポジウムにして、そこにACLであったり、Fリーグ、Jリーグを組み込むのも一つですよ。

(宮崎)フットサルのサポーターというのは、Jリーグのチームを応援しているんですか。それとも、フットサルだけなんですか。

(麻生)Fリーグに誰が集まるか予測できないですね。

(徳田)よく分からない人ですが、もっとコアな人たちです。

(牛木)ここでは取り上げてくれないだろうけど、僕が知りたいのは、Fリーグと広告エージェントの関係です。広告エージェントは動いているのですが、表には出てこないですからね。それをどこかで追求してもらいたいですね。

(麻生)さすがジャーナリストですね。

(阿部)サポーターとネットとの関わりもかなり興味深いことになっていますよね。掲示板やブログで少し変なことを書くと攻撃されたりするという怖い時代になってきたなという感じですね。私は、特定のチームを応援している訳ではなく、ただサッカーが好きだけなんです。でも、Jリーグの試合で特にゴール裏などの安い価格の席には、サポーターじゃない私はちょっと行きづらいです。

以前ネットに書き込んだら、ゴール裏にいるようなファンの人から、攻撃を受けたことがあります。そういう経験からも、サポーターの生態というのは非常におもしろいテーマだと思います。

(中塚)そのあたりを柱にしましょうか、サポーター文化であったり、観戦文化であったりを。それを柱に据えたシンポジウムで、その場面としてフットサルであったり、ACLであったり、Jリーグなどでいきましょうか。

承認

それでは、そのような方向で考えましょう。

8月、9月、10月の辺りでよい日を選んで行きましょう。「よい日」とは、会場を押さえられて、演者が来られて、予定している参加者が来られそうな日のことです。

さて、毎回事務局長を決めて、具体的な作業をしていただくことになっているのですが、どなたか担当してくださる方はいらっしゃいませんか。徳田さんどうですか。

(徳田)時期が8月だと会場押さえとかは出来るんですけど、自分が行けるかどうかというの分からないですね。

(牛木)やっぱり東京がいいんですか。

(中塚)基本的にはそうですね。

では、まず理事会に持ち帰って、改めて会員の方にメールで流します。一応テーマはサポーター文化ということで、事務局長は別途依頼すると。8月だと難しいかもしれないので、秋にやるということで。9月、10月、11月でやることにしたいと思います。

2) プロジェクト：日本サッカー史

(中塚)メールでも流しましたが、日本サッカー史ということで、プロジェクトという形でやっていきたいと考えています。牛木さんから情報を頂き、日本サッカー史の研究をやっているところがいろいろあることがわかりました。他の研究会がやらないようなことに取り組んだ方がいいんじゃないかということですけど、どうですか。

(牛木) 日本サッカー協会のご厚意でミュージアムを借りて、月に1回「日本サッカー史研究会」をやっています。トピックを取り上げて、調べるということをしているのですが、今まで取り上げたのは、例えば明治時代に日本にフットボールが入ってきたとき、それはどのようなものだったのか。いろいろな角度から専門家を招いて勉強会をしています。大正時代の話だと、東京蹴球団が中心となってサッカー協会がつけられたこと。そして昭和4年に協会のクーデターみたいなのがあって、早大、慶大、東大が力を握るようになった、という話も勉強会で取り上げています。ただ、そういう話をサロンでやるのは適当でない、と僕は思います。

中塚さんのメールの中に、サロンの会員の中に古いジャーナリストが何人かいるから、というふうに書かれていますが、それは賀川さんと僕のことを言っているのだと思います。たしかにみんないろいろなことを知っているんだけど、書けなかったこともたくさんあるので、放っておくと死んでしまうので、早く聞いて書いておいた方がいい。僕も非常に反省していて、僕の周りもみんな死んじゃったよ。

(中塚) 最初に描いていたアイデアは、「ルン」で牛木さんには申し上げたのですが、大ベテランジャーナリストに一同にお集まり頂き、幾つかのトピックについて話してもらおうというもの。2~3時間で終わるわけがないので、朝から晩まで。そのうちのどこかを公開シンポジウムにすればおもしろいんじゃないかなと考えていました。けど、理事会でも出ましたが、そういった方々にお集まり頂くような時間設定が可能かどうか、体力的なことも含めてですけど、なかなか大変じゃないかなと。むしろそれだったら月例会で、例えば、ある時はトヨタカップの始まりというテーマに絞ってお話いただくのもあるのかなって考えています。それを数年間かけて、まとまった形のものにしたいということなんです。

(牛木) 一同を集めて朝から晩までというのは、体力的に到底無理。中条さんは最近、1日一つのことしかしない。賀川さんも、皆さんと会うとしゃんとしているけど、ドイツでとぼとぼと歩いている姿は、見ていられないくらい疲れている感じがあった。1年かけてやるとすれば、月例会をベストイレブンにして、日本の歴史を回顧するというのもおもしろいと思うんです。中条さんは、クラマーさんと呼んだ経緯を詳しく調べている。東京の中野の先の方に住んでいて、もう80歳です。去年、一昨年と3回ほどクラマーさんの家に行って、話を聞いている。たとえば、中条さんと僕と賀川さんの3人集めて、テーマを絞ってやるというのはおもしろいと思う。ただ、賀川さんの場合は大阪から来てもらわなければならないという問題があります。

(藤田) サロンの会員が全国にいることを生かせないでしょうか。

(中塚) ここが隠れテーマなのですが、出張サロンを生かして、地域サッカー史の研究ができないかなと考えているんです。例えば宮明さんがいる大分に行って、宮明さんにコアとさせていただいて地域の重鎮の方にお話を聞かせていただけないかなと。それを2、3年かけてやるとおもしろいものができるんじゃないかと思っています。

(牛木) ベルリンピックは藤田さんが非常に詳しく調べています。仕事とも関係しているんだけど、こういうのを会員の中でしてもらいたいんじゃないですか。

(中塚) 藤田さん、どこかの月例会でやっていただけますか。

(藤田) 僕でよければぜひ。

(中塚) 日本サッカー史でシンポジウムをするわけではないですけど、数年間かけてサロンでしかできないサッカー史というのをやりましょう。

(麻生) 月例会で継続的にやっていくのもいい気がしますね。

(阿部) 会員の中には広島県の似島出身の方もいらっしゃいますから、ドイツ人捕虜収容所と日本(広島)サッカーの関係について話をさせていただくのも興味深いかも知れません。

(中塚) 日本サッカー史の話はこの辺りにして、まとめると、今年度の事業の柱として、一つはフットサル。公開シンポジウムは、Fリーグも含めた、サポーター文化を中心としたものを秋口に開催したいと思います。月例会に関しては、日本サッカー史を追いかけるシリーズをやっていく。出張サロンも、できればそれに絡めて、地方のサッカー史を掘り起こすようなことをやる。そのために通信で会員に呼びかけて、候補地を絞っていくという形にしていきたいと思います。

2. 2007(平成19)年度予算案

(川井)「平成19年度 サロン2002 予算書(案)」をご覧ください。理事会に諮ってつくったのですが、具体的な事業の中身が詰め切れないこともありましたので、そういうことを前提にお聞き下さい。トータルで、840,000円の予算を組んでいます。

収入の部

1. 前年度繰越金 先ほどの決算書にもあったように、次年度の繰り越しが410,240円です。
2. 会費収入 現段階の会員が、127名います。5月20日現在の会費納入状況は、82名から280,000円をすでに振り込んでいただいています。ここからは予定になるのですが、残りの45名から3,000円を入れていただいたとして、135,000円。それから、2口以上の会費納入予定者を10名として、それを1,000円で計算いたしますと、10,000円となります。よって、合計425,000円の収入を見込んでいます。
3. 雑収入 預金利息を考えています。それに月例会の余剰金が発生する場合もございますので、この金額を計上しています。

支出の部

1. 月例会補助 月例会の補助は60,000円。これは、初回の参加者の参加費を徴収しないこととしたために、それを見込んでこの金額を計上しています。
2. プロジェクト補助 シンポジウムの補助と、プロジェクトその他の補助となっています。シンポジウムに関しては、先ほども述べましたが、平成18年度の報告書の作成経費と、平成19年度の開催経費等を見込んで、合計で250,000円を計上しています。その他の補助につきまして、18年度にサロン以外の事業への協賛が少なかったため、若干減らしています。
3. 事務費 事務費は昨年度まで、細かいレベルで(印刷製本費、通信運搬費など)整理していたのですが、今年はこれらのものを事務費としてくくらせてもらいま

した。その内訳として、(1)から(7)までの経費を計上しています。

(1) 諸謝金については、30,000 円で、具体的に何かを想定しているわけはありませんが、発生する可能性があることから計上しています。

(2) 旅費については、18 年度の理事会の出席者に旅費を支給したという経緯もありますし、出張サロンについても事業として入っているため、若干使えたらいいと考え、計上しました。

(3) 印刷製本費については、今年は多くの会員が名簿を更新して頂いたことと、また、新規の会員が増えているということから、ページ数が増え、その分経費が上がっています。

(4) 通信運搬費については、缶バッジを作成していることから、今後どのような手法で送付するかを相談しているところです。これまでは、冊子小包で送付していたのですが、缶バッジを入れることにより冊子小包では送付できないのではないかとということ、また、全体の会員数が増えていることもあり、経費の増額を見込んでいます。ただし、これも先ほども申し上げたとおり、月例会案内・報告書作成費を雑役務費に計上したことにより、その分昨年度よりも経費が減額となっています。

(5) 借損料については、諸謝金と同様に個別のことは想定していませんが、発生する可能性があることから計上しています。

(6) 雑役務については、メーリングリストの契約料、振込手数料、通信運搬費から移行した月例会案内・報告作成費としています。月例会案内・報告書作成費については、メールでの作業賃ということになり、雑役務の提供として経費を計上しています。算出方法は、127 名の会員に毎月 1 回送り、これを葉書一枚送ったものと見なして 50 円の単価で換算し、経費を算出しています。

(7) 消耗品費については、18 年度と同様に封筒などの経費を計上しています。

4. 予備費 ここはある意味で、帳尻合わせみたいなのところもありますけど、想定外の経費が発生した場合のための経費として 21,500 円を計上しています。

(中塚) 補足としまして、「理事会報告」の 4 ページをご覧ください。「月例会案内・報告の通信費について(“ 謝金 ” 問題)」ということで、5 月 14 日に中塚から、理事に宛てたメールがあります。この問題について、理事会の最後でも出てきて、その後理事との間でメールのやりとりをしました。川井さんから説明があったとおり、月例会案内・報告書作成費として、葉書一枚分に換算しています。これには経緯があって、FAX 会員がいた頃発生していた実費分をどのように補填していくかということから始まっています。だけど現在では、実質実費は生まれていません。作業料をどのように算出するかということで、このような計算をしています。

しかし、倫理規定上問題があるのではないかとということで、各理事、元監事などの意見を

聞きました。ここに掲載したものです。結論は、川井さんが言ったとおりです。

ただ私は、自分の勤務先に、サロン 2002 の理事長としての兼業届けを、今のところ出していません。勤務時間外の活動なので必要ないと考えていたのですが、こういうものが発生するのであれば届けておく必要があるのでしょうか。このような付帯事項付きです。

それも含めて何かありますか。

(川井) 付け加えさせていただくと、そもそも謝礼でもいいのではないかという考え方もあるんですが、サロンがサロンの理事長に対して謝礼を払うというのもおかしいので、役務の提供として整理するのが一般的なのかなと思っています。今後、公益法人等の経費の計上方法などを参考にする必要はあると思いますが、一応 19 年度はこういう形でいきたいと思います。

(中塚) 合わせて、メーリングリストの管理など、以前に比べて仕事量が増えてきていると思います。サロンの運営に様々な人が関わっており、そういった人たちに対する役務費というのを考えていかなければならないと考えています。次年度に反映させますが、今年度中であっても、やっていく中で修正は適宜やっていきます。

(藤田) 一つだけよろしいですか。「収支決算書」予備費の備考の欄にある、「国家公務員等の旅費に関する法律」とはなんですか。

(川井) 国の職員がいろいろなところに出張する際に、その旅費を支給するために必要なことが書いてある法律です。本来サロンであれば、サロンの旅費規程を整理備して、それに基づいて支給すべきなのですが、現在サロンでは整理整備されておらず、いい加減な旅費額を支給するわけにもいかないことから、私がたまたま国の機関にいるということもあり、その基準で出しましたということです。

(中塚) 出張サロンの補助等への参加旅費というのがありますけど、これまで出張サロンは行きたい人が行って勝手にやっていたのですが、これからある任務があるとすれば、これからお金を払うからお願いしますということも出てくるかなと思います。

(川井) 謝金は払えなくても、最低限旅費くらいは払いたいところですよ。サロンのサッカー史に関する活動が活発になったら、その辺の経費が膨らんでしまうのだらうと思います。

(中塚) 840,000 円もありますので、いい活動をしていきたいですね。全体を通して何かありますか。それでは本年度の総会をお開きにしたいと思います。ありがとうございました。

以上

審議事項要約

・2007年度事業計画及び予算

1. 事業計画：本年度の「テーマ」をどこに置くか（または置かないか）

- ・月例会では「フットサル」「日本サッカー史」を中心に取り上げる（この他もOK）
- ・公開シンポジウムは、観戦文化、サポーター文化、みるスポーツに関することを、ACL、JリーグおよびFリーグなどを題材に取り上げる。9～11月に開催、事務局長は会員から募集

- ・「日本サッカー史」は、サロンにしかできない切り口で、数年間のプロジェクトとして進める。特に「出張サロン」とからめて地方のサッカー史を掘り起こしたい。
月例会の話題提供、公開シンポの事務局長、出張サロンの候補地などとして立候補があればお申し出ください。

2. 予算

84万円あまりの予算が立てられた

(ただし、2006年度公開シンポ報告書は2007年度予算で作成する。間もなく完成予定)

・サロン 2002 規約の改廃

1. 役員の任期について

任期は2年、2007～2008年度となった。

・その他サロンに関する重要事項

1. サロンの入退会をめぐって

2006年度会費未納者7名は自動退会。意思表示による退会は2名。重複があるので計8名が退会。

新規入会は18名あり、現時点で127名の会員(会費未納者含む)がいる。

2. サロン名簿の扱いについて

- ・サロン 2002 名簿は個人情報満載なので、管理には責任を持ってあたっていただきたい
- ・2008年度の入会・更新に間に合うように、提出すべき「会員データ(名簿原稿)」の内容(必須項目とそうでないもの)と名簿への掲載項目について、技術的なことも含めて検討する
- ・ただし、“志”に賛同した会員相互の顔が互いに見えるような組織であり続けたい(理事長より)

3. その他

1) MLについて

- ・MLは会員相互の情報交換の場として、良識を持って、積極的にMLを活用していただきたい。
- ・MLへの投稿としてはふさわしくない、問題であると感じられるものがあつた場合、ML管理者の涌田氏および中塚理事長へ連絡する。
- ・「このメールはサロンMLを通して配信されています。直接返信されると会員に回覧される」旨の一文がMLの文末に自動的に入れられるよう、涌田氏に依頼
涌田氏がサーバーに問い合わせたところ、「できない」ことが判明。個別に対応(注意を促したい場合は投稿者自身がその旨記載する)するしかないとのこと(2007.5.30.)

2) 掲示板について

- ・サロンの掲示板が必要かどうか、可能かどうかについて、HP管理者の本多氏を中心に検討する